

実践的コミュニケーション能力の基礎を養う学習指導と評価の工夫

－「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を通して－

内容要約

糸満市立糸満中学校教諭 下 地 早 苗

実践的コミュニケーション能力の基礎を養うために、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を通して、学習指導と評価の工夫に取り組んだ。

Interview bingo game や Pair work などの対話活動を実際の言語使用の場に近づけること、また一つの言語活動を関連させ、多角的な評価を行うことによって、指導に生かすことができた。

このように、指導と評価の一体化を図ることで、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われた。

【キーワード】 実践的コミュニケーション能力 聞くこと・話すこと 言語活動
指導と評価の一体化 多角的な評価

目 次

I	テーマ設定の理由	71
II	研究仮説	71
III	研究内容	72
1	実践的コミュニケーション能力の構成要素	72
2	実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した授業改善	72
3	実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した評価活動	72
IV	授業実践	73
1	単元名	73
2	単元設定の理由	73
3	単元の指導目標	74
4	単元の指導計画と配当時間	74
5	評価規準・評価の方法及び支援	74
6	本時の指導計画	75
7	指導と評価の工夫点	76
8	授業仮説の検証	77
V	研究全体の考察	78
1	研究仮説1の検証	78
2	研究仮説2の検証	79
VI	研究の成果と今後の課題	80
1	成果	80
2	今後の課題	80
3	研究を終えて	80

実践的コミュニケーション能力の基礎を養う学習指導と評価の工夫

－「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を通して－

糸満市立糸満中学校教諭 下 地 早 苗

I テーマ設定の理由

新学習指導要領では、外国語科の目標の最重要項目として、「聞くこと・話すこと」などの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことをあげている。これは、これから異文化と共存していく社会に生きる上で、知識としての英語力ではなく、実際の場でコミュニケーションできる英語力、つまり実践的コミュニケーション能力を身につけることが必要とされているためである。私達の周りでも、国際的イベントの開催、地域での国際交流等、外国人と触れ合うことが珍しいことではなくなり、生徒にとっても、生きた英語に触れ、使う機会が増えた。しかし、実際は、多くの生徒が会話が成り立つほどの英語力を持ち合わせておらず、積極的に英語でコミュニケーションをとることができないのが現状である。

これまで、実践的な英語力の育成をめざして、oralによる授業展開と、教師と生徒や、生徒相互の対話活動等を取り入れたコミュニケーション重視の授業を心がけてきた。しかし、学級の生徒の英語に対する意識調査の中から、生徒はペーパーテストでの評価を強く意識しており、言語活動に対する目的意識が低いことがわかった。これは、言語活動が適切に評価されず、生徒に言語活動の良さを味わわせることができなかったことが一因であると考えられる。教師の評価方法が生徒の学習方法を規定することから、実践的コミュニケーション能力の育成には、言語活動の工夫と、学習意欲に結びつくための評価方法の改善が必要であると感じた。

実践的コミュニケーション能力の基礎を養うためには、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しなければならない。そのため、学習指導の場面において、生徒が活動しやすい条件を整備し、生徒主体の授業を組み立てることが大切になる。また、単なる知識の獲得だけではなく、授業の中で、場面や状況を考慮した言語活動の場を、より多く設定することも併せて重要になってくる。具体的には、場面や状況を考慮したゲームや身体を動かすような活動を取り入れ、生徒が積極的に参加する言語活動の工夫を図りたい。一方、評価においては、日頃の学習活動に多角的な評価活動を取り入れると共に、生徒の実態を的確に把握し、支援の視点を指導に生かすなど、授業実践と評価が有機的につながっていく工夫と改善に取り組みたい。

そこで、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の場をより多く授業に取り入れ、工夫すること、更に、多角的な評価を指導に生かすことにより、個に応じた支援ができ、生徒一人一人が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されるだろうと考える。また、言語活動が適正に評価され、生徒自身が自らのコミュニケーション能力の伸びを自己評価や教師による評価によって、実感することができれば、おのずと英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が引き出されるであろう。このようにして、学習指導において「聞くこと・話すこと」の言語活動の指導と評価の一体化を図ることによって、実践的コミュニケーション能力の基礎が育成されるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 学習指導において、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の場の設定と工夫をすることにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われるであろう。
- 2 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を適切に評価し、指導に生かすことにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を引き出すことができ、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われるであろう。

Ⅲ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力の構成要素

新学習指導要領では「実践的コミュニケーション能力」とは、単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を持っているだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力とされている。コミュニケーション能力については、Canal and Swain (1980)の仮説を基にした Savignon (1983)の分析で、①文法的能力(Grammatical competence) ②社会言語的能力(Sociolinguistic competence) ③談話的能力(Discourse competence) ④方略的能力(Strategic competence)の4つの下位能力から構成されていると提唱されている。

2 実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した授業改善

上記に述べた構成要素から、コミュニケーションとは、話し手や書き手の意向をメッセージとして把握したり、伝えたりという相互的(Interactive)な活動であることがわかる。コミュニケーション能力とは、どのような場面で、どのようなことを、どのような言語形式で言うか、という「場面－表現内容－表現形式」のつながりを判断し、それを実際に活用する能力である。そこで、学習指導においては、言語活動の場面設定が日常生活に根ざしたものであることが重要になってくる。しかし、コミュニケーション活動だけにとらわれていると、生徒の言語事項の定着がおろそかになり、また文型中心のドリル学習だけでは、コミュニケーション能力は育たない。つまり、コミュニケーションを図りながら、文法を駆使する能力を育成するという考え方に基づいて学習指導を進めることが大切である。場面に応じてメッセージを伝えることのできる能力と、言語形式を正確に使用できる能力の二つの能力の基礎をバランスよく高めるための学習指導の工夫が必要になる。更に、単なる知識の獲得だけで、英語を使おうとする意志がなければ、実践的コミュニケーション能力は育たない。そのためには、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しなければならない。積極的な態度とは、「英語を使って話をしたい、意志を伝えたい」という意欲の向上を目指したものである。以上のことから、次に述べる3つのコミュニケーションの視点に立った授業改善が必要である。

(1) 場面や状況に応じてメッセージを伝えることのできる能力を養う。

- ① 文法指導は文法規則に偏らず、どんな状況で使われるかその機能についての学習に重きを置く。
- ② 様々な場面に応じた言語使用の場の設定をする。
- ③ Authentic な英語を心がける。
- ④ Classroom English の充実を図る。
- ⑤ 訳読中心ではなく、文脈をとらえさせる。

(2) 言語形式を正確に使用できる能力を養う。

- ① 生徒が理解可能な言語材料を用いて、意味ある状況で簡単な文型のドリルを積み重ねる。
- ② 場面や状況を考慮した言語活動の後で、言語事項の定着を図る活動を行う。

(3) 英語で積極的にコミュニケーションしようとする態度を養う。

- ① ゲーム的要素を言語活動に取り入れ、生徒が活動しやすい条件を整える。
- ② 教師の受容的態度と適切な言葉かけ等で、生徒が間違いを恐れず活動できる雰囲気作りをする。
- ③ 多角的な評価活動を通して、英語によるコミュニケーションへの意欲の喚起につなげる。

3 実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を目指した評価活動

(1) 評価についての考え方

平成14年度より目標に準拠した評価が実施され、評価に対する考え方も大きく変換した。『評価で授業を変える』(藤岡完治／北俊夫)の中では評価からスタートする授業づくりが提案されている。評価は指導の結果行われるだけではなく、「指導に生かす評価」だけでもない。指導と評価が同時並行して機能しなければならない。初めに生徒に対する評価(理解)があり、それに基づいて指導の方法を考えるとというものである。新学力観に立って学習指導を進めるためには、知識や技能の有無を量的にとらえるのではなく、生徒の興味・関心や見方・考え方・感じ方などの傾向や、生徒一人一人の学習の仕方や学び方の好み、傾向など、生徒の実態を質的にとらえることが大切である。

(2) 英語科における評価の改善点

英語科の評価においては、ペーパーテスト中心の評価から脱却し、日々の学習活動の中に評価活動を位置づけ、学習活動の支援に生かすよう授業改善することが大切である。具体的には、生徒の学習活動における表情、発言、行動などの観察、ノートや作品、教師生徒間、生徒相互の対話活動などを評価し、学習の支援に生かすよう努めることである。

生徒の学習は、認知・技能・思考領域と情意面が絡み合いながら進行している。よって情意面の目標や評価に留意した学習指導が重要である。生徒の学ぼうとする姿や学んでいく姿（学習の質）を評価するためには、4観点からの目標分析を行い、この観点別目標に従って、総合的に評価する方法を工夫・改善することが必要である。観点別評価の留意点と工夫について下の図のようにまとめた。

(3) 観点別評価の留意点と工夫

観点	評価についての留意点	評価方法の工夫
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	生徒が実際にコミュニケーションを行う場を設定し、その言語活動への取り組み状況を観察し、その記録の累積等から評価する。ペーパーテストには向いていない。	- Interview bingo game, Crisscross game, Pair work, Information gap 等の言語活動を授業の中に積極的に取り入れ、観察やワークシートで評価する。自己評価カードも参考にする。 - 発言・発表カードを与えることで生徒の学習意欲の喚起と観察の記録に役立てる。
表現の能力	実際に話したり、書いたりする言語活動を通して評価する。表現するために用いる語彙や表現などについての知識の有無を評価するものではない。「聞くこと」の評価はこの領域には向いていない。また、この領域での「話すこと」はペーパーテストには向いていない。	- Interview bingo game, Crisscross game, Pair work, Information gap, Oral test 等の言語活動を授業の中に積極的に取り入れ、観察やワークシートで評価する。自己評価カードも参考にする。 - 発表の機会を多く設定し、自己評価カード、相互評価表を用いて、表現に対する意識を高める。 - 作品などの課題提出による評価
理解の能力	実際に聞いたり読んだりする言語活動を通して、その内容を理解する能力を評価する。理解するために必要な語彙や文構造などについての知識を評価するものではない。「話すこと」「書くこと」の評価はこの領域には向いていない。	- Interview bingo game, Crisscross game, Pair work, Information gap, 等の言語活動を授業の中に積極的に取り入れ、観察やワークシートで評価する。 - ペーパーテストの工夫を図る。 - Oral test で定期的に評価する。
言語や文化についての知識・理解	初歩的な外国語の学習を通して、言語や文化について、どの程度知識を身につけ、理解しているかを評価する。(語彙や音声、構造、表現などさまざまな言語についての知識が含まれる)	- ワークシート、課題や作品提出物から評価する。 - Unit のまとめとして、スキット形式による発表をさせ、評価する。 - ペーパーテストの工夫を図る。

IV 授業実践

1 単元名 Unit8 : Cheer up Susan! Columbus 21 English Course 1

2 単元設定の理由

(1) 教材観 (省略)

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観

本学級は、英語に対する意識調査の結果によると、英語学習の必要性を大半の生徒が感じているにも関わらず、英語に対する苦手意識を持っているために、学習意欲が低く積極的に対話活動に参加できない生徒が多い。コミュニケーション重視の授業において、特に課題のある学級である。そこで、ゲーム的要素を「聞くこと・話すこと」の言語活動に加味することによって、生徒が楽しみながら、英語を学べる授業を目指したい。また、生徒の学習状況を的確に把握し、その評価を指導に生かすことにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を引き出したい。

3 単元の指導目標

- ・電話での基本的な慣用表現について慣れさせる。
- ・三人称単数現在形の動詞の変化に気づき、その疑問文に対して応答することができるようにする。

4 単元の指導計画と配当時間

配 時	指導内容及び指導上の留意点	主な評価の観点
1st Period	General overview of the unit. 本文の題材に興味・関心を持ち、概要をつかむ。電話での慣用表現について慣れさせる。	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度
2nd Period	Communicative Grammar Doesを使ったInterview bingo gameを行い、お互いの家族について、尋ねたり、答えたりできるようにする。それぞれの家族について簡単に英語で紹介する。(Doesを使った疑問文については、最初はYes, she does. / No, she doesn't. の段階で、十分練習させた後、平叙文と組み合わせる練習をする。)	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現
3rd Period	Oral test by ALT ALT による Oral test を行い、基本的なコミュニケーション能力育成を図り、その評価をもとに、指導に生かす。	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ③理解
4th Period (本時)	Communicative Grammar Doを使った Interview bingo game を行い、お互いのことについて、尋ねたり、答えたりできるようにする。その情報を用いてクラスメートについて英語で説明しあう。(平叙文と組み合わせる練習) (3 人称単数現在の文は、練習を十分させることと、慣れないうちはつい-s を落としがちであるので、生徒の発話意欲をなくさせないように留意しながら定着を図る。)	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現 ③理解
5th Period	Reading ピクチャーカードを使った Crisscross game を通して、簡単な英語の質問に答えられるように練習すると共に、ゲームを通して内容理解を図る。本文の内容を、感情を込めて音読出来るようにする。	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ③理解
6th Period	Consolidation of this Unit 電話での会話をスキット形式で発表させる。(相互評価)	④言語や文化についての知識・理解

5 評価規準・評価の方法及び支援（評価資料1）

Unit 8 Cheer up, Susan!			
観点	評価規準	評価基準	評価の方法・支援
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	言語活動の場面の中で、教師や友達とコミュニケーションを図ろうとする。	A 言語活動の場面の中で、教師や友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 B 言語活動の場面の中で、教師や友達と、コミュニケーションを図ろうとしている。	Interview bingo game, Crisscross game, Pair work, Oral test 等の言語活動で、コミュニケーションを図ろうとしているか評価する。 (支援)実際のコミュニケーションで有用な表現であることを知らせ、使わせるようにする。
表現の能力	家族や友達など身近な人について、ワークシートなどを参考に表現したり、尋ねたりすることができる。	A 家族や友達など身近な人について簡単に表現したり、尋ねたりすることができる。 B 家族や友達など身近な人についてワークシートなどを参考に表現したり、尋ねたりすることができる。	Interview bingo game, Crisscross game, Pair work 発表と質問を通しての第三者について表現できているか評価する。 (支援)紹介するためのワークシートを用意し、紹介文をまとめ、机間指導してから、支援する。
理解の能力	第三者についての日常生活や好みなどの説明を理解することができる。	A 第三者についての日常生活や好み等の説明を正しく理解することができる。 B 第三者についての日常生活や好み等の説明を理解することができる。	言語活動終了後に会話の結果を確認したり、ワークシートや課題等の提出物から評価する。 (支援)教師の話す英語を正しく聞き取り、理解しているか机間指導して支援する。
言語や文化についての知識・理解	3 人称単数現在形の表現方法を理解している。また、電話での基本的な表現を理解している。	A 3 人称単数現在形の表現方法を正しく理解している。また電話での基本的な表現を正しく理解している。 B 3 人称単数現在形の表現方法を理解している。また、電話での基本的な表現を理解している。	ワークシートや課題を提出させ、3 単現のs やdo, doesの使いわけができているか評価する。また、電話での会話をスキット形式で発表させることで慣用表現を理解しているか評価する。(支援)発表での意欲面を高め、表現方法のつまづきをポイントをおさえ、指導する。

6 本時の指導計画

(1) 単元名

Unit8 : Cheer up Susan! Columbus 21 English Course 1

(2) 本時の達成目標

- ① Interview bingo game を使った対話活動を通して、お互いのことについて、英語で尋ねたり答えたりできる。(既存の知識の活性化を図る)
- ② 集めた情報を用いて、友達を英語で紹介することができる。
(意味ある状況の中で目的をもって英語を使わせる場の設定)

(3) 授業の仮説

- ① Interview bingo game や Pair work を使った対話活動やワークシートの工夫をすることにより英語を実際に使い、慣れ、楽しみながら練習することができ、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われるであろう。
- ② 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の成果を適切に評価に取り入れ、支援の視点を定めることにより、教師の発問や援助に生かされるであろう。

(4) Procedure (指導過程)

Procedure (time)	Activities	students	Remarks/Evaluation
	JTE		
Greetings	Good mornig, everyone. How are you today?	Good morning, Ms Shimoji. I'm fine, thank you. And you?	Teacher tries to make a relaxed atmosphere to lead into the next activities.
Warm-up (5min)	I'm fine, too. Today, we have many teachers in this class-room. Some of them maybe you know. Do you know him? What's his name? Is he a good teacher? So, What day is it today? What's the date today?	S1: Yes, I do. S1: He is Mr Shingaki. S1: Yes, he is. It's Monday. It's December 16th	＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・観察 ・自己評価カード
Introduc-tion of the key sentences. (5min)	Now, let's review the last lesson. Do you like English? Does he like English? He likes English. Everybody, repeat after me. He likes English. How about Today's lunch menu? Today, we have (). Do you like ()? What do you like? What does he like? How about you?	Yes, I do. /No, I don't. Yes, he does. /No, he doesn't. He likes English. Yes, I do. /No, I don't. I like (). He likes English. I like ().	Encourage Ss to speak up. ＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現 ・観察 ・自己評価カード ・発表・発言カード
Communica-tive activity (15min)	Now, let's play the Interview game, by using this Expression. Before, we play the game. Can you read this in Japanese? JTE Confirms the aims of this lesson, and put it on the blackboard. 友達と積極的に英語でコミュニケーションをしよう 友達について英語で紹介ができるようになろう Now, I am going to give you worksheets. Now, let's practice. Do you _____ ? Yes, I do. / No, I don't.	• read it in Japanese. S1: Here you are. S2: Thank you. S3: You're welcome. Do you _____ ? Yes, I do. /No, I don't.	＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現 ・ワークシート ・観察 ・自己評価カード 渡すときの表現が英語で行われるよう助言する。 Make sure students understand the key sentences. ・BGM で楽しい雰囲気を作る。

	Now, let's start! We have only 10 minutes. Are you ready? Interviewが英語で行われるよう注意する。 なるべくたくさんの友達と会話するよう援助する。 サインも英語で書くよう指示する。	Yes! • ask and give a sign on their worksheet one another.	・机間指導して、個人指導する。 ・Oral test. でのCの生徒に質問して援助する。
Bingo game (5min)	Now, times up! Everybody please sit down. Now, let's play Bingo. I will call a name, please check the name. If you can make a line, please say Bingo. O.K? I will give you a prize.	Bingo! Thank you.	シールをもらう時の表現が英語で行われるよう助言する。
Pair work (15min)	Now, you have the information about your friends. Please write it down on your worksheets. So, you have 9 friends' names on your Bingo sheet. Please write them down on the other worksheet. Then, write the proper verbs in these blanks. If you finished, please read the sentences to your friends at your side. You may use Aizuchi when you listen. Make pairs. Let's practice! Who has _____ ? Please tell me in English? Any volunteers? Who's your partner? Can you tell us about your partner in English? you can use your worksheet. Any volunteers? If you volunteer, you can get extra points. ・発表したペアには、発言・発表カードを与える。	• write it down on their worksheets. • read the sentences each other. () has ()	＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現 ③理解 ・ワークシート ・観察 ・自己評価カード ・発表・発言カード 動詞には3単語のsがつく表現に気をつけさせる。 ・なるべく多くのペアが発表できるよう援助する。 ・次の発表への意欲につながるよう言葉かけをする。
Consolidation (5min)	JTE confirms the today's lesson points. 自己評価カードの記入をさせる。 Thank you very much, That's all for today. Good bye, everyone. See you.	自己評価カードの記入 Goodbye, Ms Shimoji. See you.	＜評価＞ ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・自己評価 ・観察

自己評価カード 日 月 年 ()

Class () Not () Name ()

★今日の授業を振り返ってみてどうでしたか? 次の項目のあてはまるものに○をつけよう

A: 上手にできた B: 出来た C: 出来なかった

- 英語のあいさつをすることが出来た。 😊 😊 😊
- 積極的に先生や友達と英語でコミュニケーションを図ろうすることが出来た。 A B C
- 英語を使って、お互いのことについて、友だちに尋ねたり答えたりすることが出来た。 A B C
- 友達の事について、英語で紹介することができた。 A B C
- 使った表現や、授業の内容がよく分かることができた。 A B C
- 英語での対話活動をしてみて、どうでしたか? A B C

ア 楽しかった イ まあまあ楽しかった ウ あまり楽しなかった エ 楽しなかった

評価資料2 自己評価カード

😊 Volunteer and Good Job Card 😊

Class () Not () Name ()

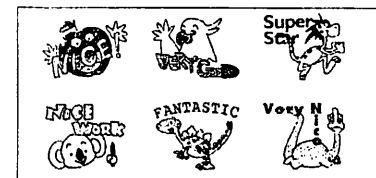
Date ()

★ワッಪ記号を選んで○をつけよう! 内容😊6個記入せよ。

1 発言/質問/その数 ()

2 発表 ()

評価資料3 発言・発表カード



資料1 Bingo game で生徒に与えるシール

7 指導と評価の工夫点

(1) 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の工夫

Interview bingo game は正確さ (accuracy) より、流暢さ (fluency) を重要視した活動であり、Pair work の活動は、Interview bingo game の活動を受けて、fluency より accuracy を重要視した活動である。このような2つの実際の情報を伝え合う言語活動を組み合わせることにより、音声を中心とした理解から、言語事項の運用面での定着を図るのがねらいである。

① Interview bingo game (資料2) の工夫

単元の中では Does と Do の基本的応答文について、Interview bingo game を次のような流れで行っている。

まず最初に新出文型を Oral introduction の中で紹介する。文法事項の説明は詳しく述べず、聴解による理解に留めた後 Interview bingo game のワークシートを使い、ドリル (Pattern practice) を行う。少し表現に慣れたところで一斉に Interview を行い、Yes と答えた相手にサインをもらう。サインが集まったところで、全員席につき、Bingo game を始める。Bingo に当たった生徒には、シールを与える。ゲームが終わった段階で、更に Review (Pattern practice) を入れ、音声面での定着を図る。

ア 場面や状況に応じてメッセージを伝えることのできる能力を高めるための言語活動として Interview bingo game を実際の情報交換が行われる場にし、自然な形で言語が習得されるよう工夫する。

イ Interview 活動が Bingo のゲームへとつながり、またビンゴの成果としてシールをもらえるなど、遊びの要素を加えることによって、対話活動に抵抗感のある生徒も楽しみながら、積極的に言語活動に参加出来るように工夫する。

ウ 文字の理解の助けとなるよう、視覚に訴えた補助資料としてイラストをワークシートに活用する。

エ 言語材料について、実際の使用頻度の高いものを精選し、容易なものから難易なものへと配列する。

② Pair work (資料3) の工夫

Interview bingo game の後、それを用いて集めた情報についての表現活動の Pair work へ次のようにつながっている。発話練習を通して、定着を図るようにする。

Interview bingo game のそれぞれの項目について、まとめたワークシートを用いて、事前に学習した相づち表現を使い、お互いにアウトプットし練習する。pair work で十分に練習し、慣れた後で、全体の前で Presentation へとつなげる。

言語活動の流れ

Interview bingo game

Interview and Bingo Game

1st grade class () No () Name ()

★次の表を見て友達の名前をサインしよう！
Yes と答えてくれた友達の名前をサインしよう。
Yes が全部つくったら、Bingo game を始める。

Q: Do you _____ ?

A: Yes, I do / No, I don't

1 play basketball	2 like dogs	3 like cats
4 sleep in bed	5 cook	6 watch TV
7 have a bike	8 have a brother	9 have Kittychan's goods

何人の友達と友達でコミュニケーション出来るかな？

資料2 ワークシート①

定着を図るための相づち表現を使った Pair work

1st grade class () No () Name ()

BINGOシートを見て友達の名前をサインしよう！

()の中にはサインをくれた友達の名前を書こう！

★主語が3人称単数で現在形を表す文では動詞にsがつきます。

① (S a n o o) play basketball

1 (Chitose) likes basketball

2 (Mai) likes dogs

3 (Rikako) likes cats

4 (Ayumi) sleeps in bed

5 (Yumi) cooks

6 (Pyohei) watches TV

7 (Yusuke) has a bike

8 (Hajime) has a brother

9 (Kazuo) has Kittychan's goods

資料3 ワークシート②

全体の前でのPresentation (発表)

(2) 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の評価の工夫

それぞれの言語活動と評価を有機的に結びつけ、学習のねらいに近づけるよう工夫する。

① 生徒の意欲を引き出すための言語活動の評価

- Interview bingo game では、10分間の短い活動時間により多くのクラスメートとコミュニケーションするという目標を生徒にもたせるために、ワークシート① (資料2) にはクラス全員の名前のチェック欄及び、コミュニケーションした人数の記入欄を設け、評価に生かせるようにする。
- 自己評価カード (評価資料2) を用いて、生徒自らが学習結果を客観視し、次の目標設定ができるようにする。
- 発言・発表カード (評価資料3) を用いて、進んで発表する動機付け及びその場で評価することの即時的効果をねらう。
- 相互評価表 (評価資料4) で互いに評価しあうことにより、評価の観点と審査基準を意識した学習活動になるようにする。

② 生徒の実態を適切に把握するための評価資料

- 評価標準・評価の方法及び支援 (評価資料1) : 生徒一人一人が指導目標に向かうよう学習内容の焦点化と支援の視点を明確化する。
- Oral test (評価資料5) : Oral test question form (評価資料5-1) に示されたような基本的応答文で、基本的コミュニケーション能力をチェックし、Oral test 評価記入表 (評価資料5-2) にまとめ、指導に役立てる。また個人学習一覧表 (評価資料6) に実態として記入し、言語活動の中で、個への支援に役立てる。
- 観点別評価一覧表 (評価資料7) : 単元での評価標準をもとに、評価場面と評価方法をとらえ、適切に評価し、支援に生かす。
- 個人学習一覧表 (評価資料6) : 生徒一人一人の学習状況を把握し、支援の視点を定める。

- ③ 指導と評価の一体化
- 多様な評価方法を用いて、多角的に評価することにより、生徒の実態を適切に把握し、指導に役立てる。
- 随時、評価の結果を生徒に知らせることにより、生徒に次の目標をもたせ、学習意欲の喚起につなげる。

Q1 Are you _____ ?

- Yes, I am. / No, I'm not 3 points

- Yesなどの1語応答 2 points

- 誤答 / I don't know 1 points

- 応答なし 0 points

Q2 What's this? (疑問詞)

- It's 3 points

- 1語応答 2 points

- 誤答 / I don't know 1 points

- 応答なし 0 points

Q3 Do you like / apples, oranges, bananas / ?

- Yes, I do. / No, I don't. 3 points

- Yes, / No, / 時刻などの一部ミス応答 2 points

- 誤答 / I don't know 1 points

- 応答なし 0 points

評価資料5-1 Oral test question form

Oral Test class 1-3 (19boys, 17girls) 12/12 2002 Thursday

No	name	Q1	Q2	Q3	Total	notes
1		1	3	2	6	such a lot
2		0	2	3	5	at, don't understand
3		2	3	3	8	good!
4		2	0	2	4	too shy
5		2	3	3	8	very good!
6		2	3	3	8	good!

評価資料5-2 Oral test 評価記入表

Class _____ No _____ Name _____

★全員が発表者であり、審査員です。友達の発表を聞いて気づいたこと、ほめてあげたいことを書こう！

★審査の基準と観点

(1) 英語を使おうとする意欲: 3点	(2) 表現: 3点	(3) 言語に対する知識・理解: 3点
(1) 声の大きさ (Voice control) (2) 暗唱 (Memorization) (3) 態度 (目線・ジェスチャー) (Attitude, Eye contact, Gesture)	(1) 内容を理解し、自分の知っている単語を使って表現しようとしているか。(Comprehension, Expression)	(1) 発音 (Pronunciation) (2) 抑揚 (Intonation) 英語らしい発音、イントネーションであるか。

番号	氏名 及び グループ名	(1) 意欲	(2) 表現	(3) 知識	合計	コメント
1						

評価資料4 相互評価表

8 授業仮説の検証

- (1) 仮説① Interview bingo game や Pair work を使った対話活動やワークシートの工夫をすることにより、英語を実際に使い、慣れ、楽しみながら練習することができ、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われるであろう。

本時では、Interview bingo game や Pair work を用いた生徒相互の対話活動を授業の中に取り入れた。10 分間の Interview bingo game の中で、生徒は活発にお互いの情報を英語で聞き取り、英語で答える様子が見られた。

自己評価集計結果では、「英語の対話活動は楽しいですか」という質問に対して、88.2 %の生徒が「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と答えており、英語を実際に使い、慣れ、楽しみながら練習することができたと言える。

(図 1)

また、「積極的に英語でコミュニケーションできたか」という質問に対しても、「上手に出来た」「出来た」と答えた生徒を合わせると94.1 %になり、ほとんどの生徒が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が養われたと捉えることができる。(図 2)

更に、授業後のワークシートのチェック欄の集計から34名中22名の生徒が10分の活動時間に、10名以上のクラスメートと、またその中の5名の生徒は、20名以上のクラスメートと英語でコミュニケーションしている。このことから、ワークシートの工夫をすることにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ることができたことがわかる。上記の結果から、対話活動にゲーム的要素を加えることによって、英語を使い、慣れ、楽しみながら、練習することができ、英語で積極的にコミュニケーションする態度が養われたと判断される。

- (2) 仮説 ②「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の成果を適切に評価に取り入れ、支援の視点を定めることにより、教師の発問や援助に生かされるであろう。

本時においては、前時にALTによる Oral test を行い、生徒のコミュニケーション能力におけるつまづきをチェックし、更に個人学習一覧表に、生徒の実態、支援の視点をまとめ、指導に役立てた。授業後の自己評価の欄には、17名の生徒が先生に個人的に助けてもらったと答えている。その内容として、「三人称の変化の仕方がわかった」「発音の仕方、読み方、間違ったところを教えてもらった」「相づちの表現を教えてもらった」など、様々な回答が得られた。このようことから、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の成果を適切に評価に取り入れ、支援の視点を定めることにより、教師の発問や援助に生かすことができたと判断される。

英語の対話活動は楽しかったか

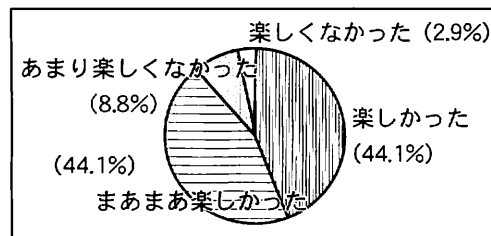


図 1 自己評価集計結果 (調査人数 35 人)

積極的に英語でコミュニケーションしたか

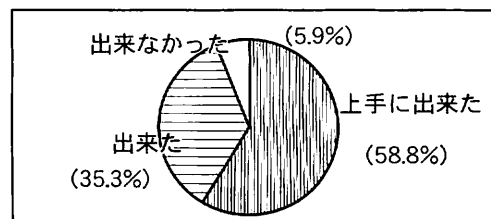


図 2 自己評価集計結果 (調査人数 35 人)

個人学習一覧表

- ・ Oral Test の Q3 で誤答または無回答の生徒…★
- ・ 対話活動において、特に援助が必要と思われる生徒…***
- ・ 対話活動において、援助が必要と思われる生徒…**
- ・ おとなしい性格のため話すのが苦手な生徒…*

生徒名	生徒の実態	支援の視点	備考
A *** ★	特定のグループとしか交流できず、対話活動になると動きが少ない。Oral test では、Yes、No のみで答えている。特に Wh- の疑問詞で始まる疑問文を聞き取ることができず、答えることができない。基礎的な部分でつまづきがあり、単語を発音するのが苦手である。	文を理解させ、脱めるように丁寧に指導した上で、答え方の例を示し、少しずつ対話に参加するよう援助する。	
B ***	英単語を覚えるのを苦手としており、発話練習に消極的である。基礎的な力が身につけていないために英語に対する苦手意識があり、すぐあきらめてしまうことが多い。人前での練習は嫌がるが、個人的には比較的、素直に助言を受け入れ、向上心はあるように見受けられる。	根気強く声を出すことで、楽しく会話ができるよう、教師から質問して答えさせたりする。個人的に練習を積んで、自信がついた後で発表させるようにする。	
C **	基礎的な力が不足し、つまづきがあるが、最近、発言・発表カードで学習意欲を発揮し、少しずつ積極的に授業に参加するようになった。Yes-No Question には比較的答えているが、英語のあいさつなど慣用表現をまだ理解していない。	間違いのある発表も多いが、意欲面をほめ、次の発話意欲へとつながるよう助言する。授業始めのあいさつの質問で指名し、答え方に慣れさせるようにする。	
D ** ★	読むこと書くことの力はあるのだが、対話活動には抵抗感があり、積極的になれずにいる。Oral test の Q3 では基本本文の応答で無回答となっている。	ペアワークにおいて、対話の楽しさが実感できるよう援助する。机間指導で支援する。	
E *	家庭学習などまじめに毎日提出するなど、学習意欲はあるが、おとなしい性格のため、積極的になれずにいる。	仲の良い友達とのペア活動で、楽しみながら、対話できるよう援助する。	

評価資料 6 個人学習一覧表

V 研究全体の考察

1 研究仮説 1 の検証

学習指導において、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の場の設定と工夫をすることにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われるであろう。

単元全体を通して、Interview bingo game や Pair work を用いた生徒相互の対話活動を授業の中に積極的に取り入れ、ワークシート等の工夫をすることによって、学習のねらいとするコミュニケーションの意欲喚起から、言語事項の定着まで、学習を高める工夫を行った。

(1) 英語で積極的にコミュニケーションを図ったか。

第1回から第4回までの授業での自己評価の集計結果（調査人数35人）から、「先生や友達と英語で積極的にコミュニケーションを図ったか」という質問に対して、「上手に出来た」と答えた生徒は、9.4%から58.8%と増えている。「上手に出来た」「出来た」と答えた生徒も含めると、同様に78.2%から94.1%に増えている。このことから、多くの生徒が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけていっていることがわかる。（図3）

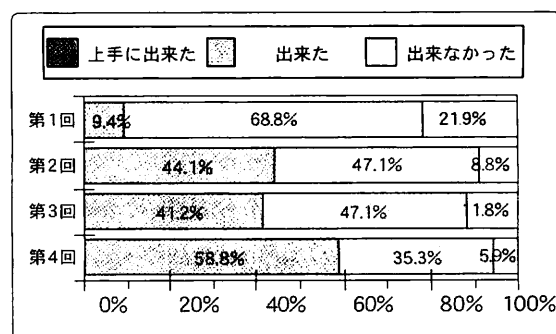


図3 英語で積極的にコミュニケーションを図ったか

(2) 対話活動を通して習った表現の使い方が分かったか。

「習った表現の使い方が対話活動を通してよくわかったか」という質問に対して、事前では45.7%，事後では77.1%の生徒が「わかった」と答えており、学習した言語事項の理解が深まったことがうかがえる。

（図4）

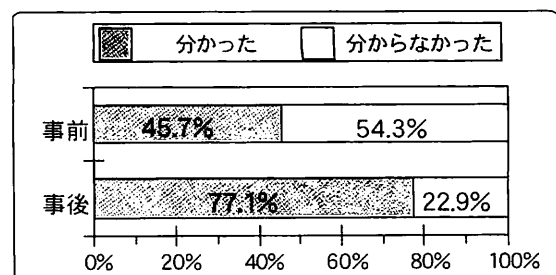


図4 習った表現の使い方がよくわかったか

(3) 対話活動を通して習った表現の使い方に慣れたか。

「対話活動を通して習った表現の使い方に慣れたか」という質問に対しては、「出来た」と答えた生徒は、事前では42.9%，事後では71.4%と増えている。対話活動に積極的に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎となる表現を身につけることができたと言える。（図5）

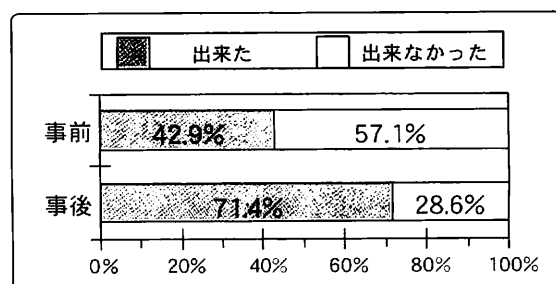


図5 習った表現に慣れることができたか

(4) 英語を使って外国人と話がしたいと思うか。

「英語を使って外国人と話がしたいと思うか」という質問に対しては事前では60%，事後では82.9%の生徒が「話してみたい」と答えたことから、コミュニケーションに対する意欲の向上が図られたと言える。

（図6）

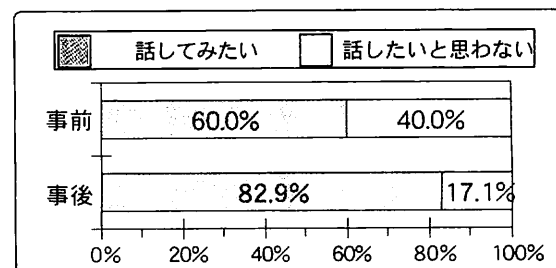


図6 英語で外国人と話がしたいと思うか

Interview bingo game や Pair work を自然な言語交渉の場に設定することにより、生徒は実際の言語使用の基礎となる発話練習を、ゲームを通して楽しみながら行い、自然に言語形式を身につけることができた。

上記の結果から、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の場の設定と工夫により、生徒の英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われたと判断される。

2 研究仮説2の検証

「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を適切に評価し、指導に生かすことにより、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を引き出すことができ、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われるであろう。

今回の研究の中で、自己評価カード、Oral test、発言・発表カード、観点別評価一覧表、相互評価表を使い、生徒の学習の様子を多角的に評価する事ができた。授業仮説でも検証したように、これらの評価表から個人学習一覧表を作成し、支援の視点に生かすことができ、生徒の学ぼうとする姿や学んでいく姿（学習の質）の変容が見られた。事後のアンケートの結果で、それぞれの評価資料に対して、次のような結果が得られた。

自己評価カードを使って初めての感想として、右の資料に示したように、英語の学習に対して前向きな回答が得られた。また、外国人のALTによるOral testに対しても、英語を実際に使うということを経験し、成就感を得て、次の学習への意欲となっていることがわかる。（資料4）

「発言・発表カードはあった方がよいと思いますか」という質問に対しては、「あった方がよい」

「できればあった方がよい」と答えた生徒が35名中28名おり、その理由として「もらって嬉しくてできたと思えるから」「やる気が出て次も頑張ろうと思う」などの回答が得られた。（表1）

これらの結果から、自己評価カード、Oral Test、発言・発表カードの授業への活用は、生徒の英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を引き出す上で有効であったと言える。

また、Pair workによる発表を相互評価表を用いて、お互いに評価することにより、生徒自身が評価の観点を意識し活動に取り組む様子が見られた。

更に、それぞれの言語活動の評価を観点別評価一覧表にまとめることによって、生徒個々の単元のねらいとする学習の達成状況を知ると共に、それぞれの観点での評価場面と評価方法をとらえ、支援の視点に生かすことができた。

このようにして、「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を多角的に評価すると共に多様な評価方法を工夫することで、生徒の実態を把握し、指導の工夫・改善に生かすことができた。また、学習の結果だけでなく、学習中の努力や伸びを適切に評価することで、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を引き出すことができ、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われたと判断される。

- ①自己評価カードを使って初めての感想

 - ・自分のことがよくわかり、次は頑張ろうと思う。
 - ・次はAを取りたいと思う。

②Oral testの感想

 - ・緊張したが、英語が通じて嬉しかった。
 - ・本当に話すのが難しいことがわかった。
 - ・おもしろかった。楽しかった。
 - ・またやってみたい。

資料 4 生徒の感想

表1 発言・発表カードについての集計（調査人数 35名）

発言・発表カードはあった方がよいと思いますか			
	男	女	計
あった方がよい	10	7	17
出来ればあった方がよい	5	6	11
なくてもよい	3	4	7
ない方がよい	0	0	0

観点別評価一覧表 単元名 Unit 8 Cheer Up Susan!

評価項目		コミュニケーションに対する関心・意欲・態度				表現の能力				理解の能力				言語や文化についての知識・理解			
出席番号	氏名	言語活動の場面の中で、教師や友達とコミュニケーションを図ろうとする。				家族や友達など身近な人について、ワークシート等を参考に説明したり、尋ねたりすることができる。				第三者についての日常生活や、好みなどの説明を理解することができる。				3人称単数現在形の表現方法を理解している。また、電話での基本的な表現を理解している。			
評価方法	評価場面	あいさつ	ビンゴ①	ビンゴ②	観察	ビンゴ①	ビンゴ②	ペア発表	課題作品	オール	ペア	課題	ペーパー	スキット	課題	ワークシート	ペーパー
評価日		11/28	12/5	12/16	12/17	12/5	12/16	12/16	12/11	12/12	12/17	11/22	12/19	11/22	11/22	12/19	12/19
1		A		A	B		A	B	B	B	A	B	A	B	A	A	B
2		B		A	A	B		B	A	B	B	B	A	B	B	A	B
3		B	B		B		B	A	B	A	B	B	B	A	B	B	A

評価資料7 観点別評価一覧表

1 成果

- (1) 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動の場の設定と工夫をすることにより、より多くの英語に触れ、使う機会が増え、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われた。
- ① Interview bingo game や Pair work などの言語活動を実際の言語使用に近い場の設定とし、工夫することにより、自然な形で言語を発話する能力を高めることができた。
 - ② 言語活動にゲーム的要素を加えることによって、間違いを恐れず、英語で積極的にコミュニケーションしようとする態度を養うことができた。
- (2) 「聞くこと・話すこと」を中心とした言語活動を多角的に評価し、指導に生かすことにより、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われた。
- ① Interview bingo game や Pair work を適切に評価し、指導に生かすことにより、習った英語を使いたいという意欲を喚起することができた。
 - ② 自己評価カード、Oral test、相互評価表、発言・発表カード、観点別評価表などで得られた生徒の実態をそれぞれの学習場面で、適切に活用することで、指導に生かすことができた。またそれを個人学習一覧表にまとめることにより、支援の視点が明確になり、指導に生かすことができた。
 - ③ 総括評価表（評価算定表）も作成することができ、自分の学習指導の重点や評価のバランスをはっきりさせることができた。

2 今後の課題

- (1) 実践的コミュニケーション能力育成のための言語活動や教材を更に開発し、生徒の対話活動への意欲が継続するように工夫・改善する必要がある。
- (2) 研究に関わった単元については、詳しい評価資料を作成することができたが、年間を通してとなるとまだ作成の途中であり、より具体的な評価計画、評価資料の作成が急務である。
- (3) 一つ一つの評価については、評価の客観性、信頼性を高める必要がある。
- (4) 評価算定表の4観点の評価のバランスの調整、また、評価場面の精選と、評価方法の工夫が必要である。

3 研究を終えて

これまでの私自身の授業を振り返ると、コミュニケーション活動を取り入れようとするあまり、ドリル学習が不足し、言語形式の定着がおろそかになることがあった。これは、日々の授業が俯瞰的に全体をとらえた視点と計画性がなかったためであり、大いに反省される点である。研究を通して、断片的であった授業のアイディア、評価方法の数々を、有機的に結びつけることができた。そのプロセスにおいて、実践的コミュニケーション能力とは何かを強く意識し、その育成のために何が必要であり、どう生徒達に向き合えばよいのかということを吟味し、分析することで、指導と評価の一体化を図ることができた。これまでの授業実践で、生徒達が変容していく様子をダイレクトに感じることができ、また、自分自身の指導の在り方を客観的に見直す良い機会となった。

「生徒の伸びようとする可能性を評価する」この視点が私の研究に与えた影響は計り知れない。これを機に更に研究を深め、実践に生かしていきたい。

〈主な参考文献〉

平田和人編著	『中学校英語科のリニューアルと授業デザイン』	明治図書	2002年
文部省	『中学校学習指導要領 解説－外国語編－』	東京書籍	1999年
藤岡完治／北俊夫編著	『評価で授業を変える』	ぎょうせい	1998年
代表 常田 寛	『COLUMBUS 21 Teacher's Manual 1 解説編』	光村図書	2002年